

国立大学等の 特色ある施設

2014

大学機能を活性化する教育研究空間づくり編

バーにて一次選考を行い上位5位までを選定し、役員会にて名称は「教育未来館」、愛称は「ウイング愛教」が決定した。

■能動的学習・機動的変異性を有した空間の創出

○Hall

2階中央に配置したホールには、アクティブラーニングやコミュニケーションスペースの場として、ホワイトボードの壁やカウンターを整備した。また、2階には自習室や講義室、研究室等を配置しており、中央に配置したホールは各室を有機的に結びつける機能を有している。

○Open Corner

各フロアには、オープンコーナーを配置し、ホールからフリーにアクセスできる設計とした。このスペースは、デジタルサイネージにより海外情報を様々な言語で発信し、国際教養の理解を深める場であるとともに、大学院生を始め教職員やプロジェクト研究者、留学生、海外招聘（しょうへい）研究者等、多種多様な大学関係者が交流できる場である。

○Lecture Room

講義室と廊下を隔てる壁は、ガラスパーテーションを採用することで開放感を作りだし、「学習活動の見える化」を推進した。また、多様化する授業のかたちに対応するために可動間仕切りを設置し、前方には、黒板及びスクリーンプロジェクターを、後方には、ホワイトボードを設置した。

○Multipurpose Hall

3階に配置した多目的ホールは、テレビ会議システムやプロジェクター、大型スクリーン等電子機器が配備され、セミナーのみならず、留学生のガイダンス等の各種イベントに対応したスペースを確保した。

■気流制御による快適性能の向上

○Air Conditioner

開放的な空間を演出するため、1階フロアでは、ホールと事務スペースを隔てることをしなかったため、室温制御は、上部からの空調と下部からの空調吹出ファンにより温度ムラを無くし、ホールとの境界に配置されたサーキュレーターはエアカーテンの役割を果たすよう設計した。

○Odor Control

全てのトイレブース内に換気用ダクトを設け、発生した臭気を人の鼻を通さず外へ排出するよう下部吸い込みを採用した。

■自然と調和したデザイン

○Exterior Design

建物北側の曲面形状のガラスウォールに映り込む四季折々の青空、夕焼け、樹木とそこから透けて見える内部活動の様子がファサードデザインとなる。

○Glass Wall

北側に設けた全面ガラスウォールにより安定した光量を確保できる。また、立地条件を活かし街を望むパノラマ風景が見渡せ、穏やかな学習環境を確保した。

■自然の温度差を利用した換気システム

○Window Flow

吹抜ホールにおいて、垂直方向の空気の流れをつくり、上階・下階の温度差により上昇気流を発生させる。発生した気流によって、貯まった熱気は、開閉制御付きのトップライトから屋外へ排出され、その誘引効果により下階から新鮮空気を取り込むことが出来る。

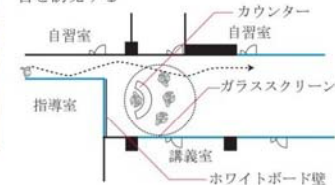
○Air Duct

夏は冷たく、冬は暖かい地熱を利用した換気システムであり、中間期の室内環境の向上と空調負荷の低減を図った。



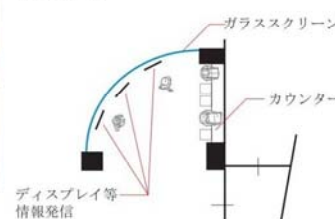
2階Hall

学生・教員のコミュニケーション アクティブラーニングの場。各所にホワイトボードやカウンターを配置し能動的な学習を誘発する



2階Open Corner

学科・年齢・性別などの垣根を越えた交流を促す場



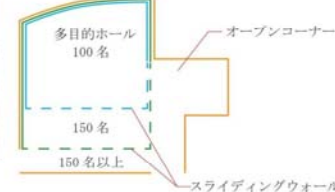
2階Lecture Room

ガラスパーテーションによる開放的で見通しの良い講義室。学習活動の「見える化」を推進



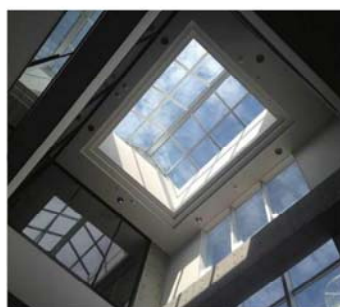
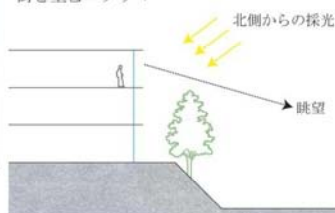
3階Multipurpose Hall

部屋の壁二面をスライディングウォールにすることにより多様な用途に対応したスペースとした



3階多目的ホールからの眺望

北面に設けた全面ガラスウォールによる安定した光量の確保。立地条件を活かし街を望むパノラマ



吹き抜けホール

外部から吹抜上部へ抜ける自然な空気の流れを活かした自然換気システムの導入

